

記者発表資料  
平成10年7月28日  
環境保全局環境監視センター  
担当課長 宇田川 671-3445

大気中ダイオキシン調査結果の中間報告について  
— 5月分調査結果（春季調査） —

1 調査の趣旨

本市では、市域の大気環境中のダイオキシン濃度を把握するため、平成9年10月、12月に引き続き今年の5月にも調査を実施しました。

このたび、平成10年5月の測定結果がまとまりましたのでお知らせします。（平成9年10月分は、今年の1月20日に、12月分は、2月12日に発表済です。）

2 調査の方法

10、12月と同様市内9地点において、平成10年5月13日から15日にかけて24時間サンプリングを2回連続して行い、各地点2検体で合計18検体を採取し分析を行いました。

なお、これらの測定点は、いずれも大気汚染物質濃度を常時測定している本市の一般環境大気測定局で、臨海部、都心部、郊外部等の地域性を考慮し選定したものです。

3 測定結果

（単位：pg-TEQ/ m<sup>3</sup>）

9年10月の測定結果

9年12月の測定結果

測定地点	① 5月	② 5月
	13~14日	14~15日
1 鶴見区生麦小学校	0.17	0.28
2 西区平沼小学校	0.23	0.25
3 中区本牧	0.20	0.23
4 旭区鶴ヶ峯小学校	0.33	0.25
5 港北区総合庁舎	0.21	0.19
6 青葉区総合庁舎	0.37	0.29
7 戸塚区汲沢小学校	0.20	0.27
8 栄区犬山小学校	0.34	0.20
9 瀬谷区南瀬谷小学校	0.35	0.24
平均	0.27	0.24

① 10月	② 10月	① 12月	② 12月
2.7	0.92	0.48	1.2
4.9	0.97	0.95	1.0
0.87	0.80	0.47	1.4
1.2	1.1	0.58	0.98
1.1	0.87	0.77	1.2
1.3	1.2	0.88	1.0
1.1	1.3	0.71	0.96
0.93	1.0	0.45	1.0
1.1	1.3	0.49	0.85
1.7	1.1	0.63	1.1

単位 pg：ピコグラム。1ピコグラムは、1兆分の1グラム

TEQ = 「毒性等量」。ダイオキシン類の量を、ダイオキシン類の中で最も毒性の強い2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-p-ダイオキシンの量に換算した量として表していることを示す符号。

#### 4 考察

- (1) 5月は、平成9年10、12月の測定結果よりも全般的に低い値となっています。
- (2) 地点間の濃度差も平成9年10、12月に比べ低くなっています。
- (3) 5月は、これまでの測定値に比べ、1回目(①13~14日)と2回目(②14~15日)の測定値の変動が小さくなっています。
- (4) 年平均値として設定された環境庁の指針値(年平均値0.8 pg-TEQ/ m<sup>3</sup>以下)への適合等の評価は、8月(夏:8月3~5日予定)の測定結果を加えた年平均値で行います。
- (5) これまでの測定結果も含め、環境庁の調査による全国的な測定結果と比較して見ますと、大都市地域並みの値となっています。

#### 参考1 環境庁によるダイオキシン調査結果による大都市地域の夏と冬の測定値

	最小	最大	(単位: pg-TEQ/ m <sup>3</sup> )
平成2年度	0.00	~ 4.7	
平成4年度	0.00	~ 2.6	
平成6年度	0.00	~ 3.0	
平成8年度	0.04	~ 2.69	(季節別等の結果は、参考2)
平成9年度	0.01	~ 0.61	(季節別等の結果は、参考2)

#### 参考2 上記環境庁調査のうち季節別等の測定結果(大都市地域)

[平成8年度]

	(単位: pg-TEQ/ m <sup>3</sup> )
冬の測定の平均値	1.57 (地点毎では、0.48~2.63)
夏の測定の平均値	0.46 (地点毎では、0.12~0.89)
夏冬あわせた平均値	1.02 (地点毎では、0.30~1.65)

[平成9年度]

	(単位: pg-TEQ/ m <sup>3</sup> )
冬の測定の平均値	0.31 (地点毎では、0.01~0.54)
夏の測定の平均値	0.32 (地点毎では、0.01~0.61)
夏冬あわせた平均値	0.32 (地点毎では、0.01~0.50)